

Research, 1993, 10, Tokyo.

- 23) 中村 耕, 福永康継, 家永治, 横澤隆子, 大浦彦吉: クレアチニンの生体内酸化反応について. 第15回グアニジノ化合物研究会, 1993, 10, 富山.
- 24) 柴田 透, 石田健司, 金子 稔, 中谷孝行, 長谷川真常, 大浦彦吉, 横澤隆子, 金 武祚, 阪中専二: 透析患者に対する緑茶タンニン投与の試み. 第15回グアニジノ化合物研究会, 1993, 10, 富山.
- 25) 横澤隆子, 周 家俊, 大浦彦吉, 服部征雄, 稲場 進, 岡田敏夫, 野中源一郎, 西岡五夫: 腎摘ラットを用いた丹参成分 lithospermic acid B Mg 塩の作用に関する研究. 第36回日本腎臓学会総会, 1993, 12, 横浜.

◆ その他

- 1) 服部征雄, 難波恒雄: 和漢薬の厳密な評価は可能か, 総合臨床, 42, 3069-3071, 1993.
- 2) 楠本イネス俱子, 服部征雄, 難波恒雄: 抗AIDS ウイルス作用を有する伝統薬物の探索, 現代医療学, 8, 150-152, 1993.
- 3) 阿部博子, 西野素子, 原中瑠璃子, 横澤隆子: 漢方を語る. 漢方研究, '93/12, 382-393, 1993.

高次神経機能制御部門

教授 野村 靖 幸

◆ 著 書

- 1) 東田道久, 野村靖幸: セロトニン受容体チャネル. 「イオンチャネル・1」
東田陽博編, 94-103, メジカルレビュー社, 東京, 1993.

◆ 原 著

- 1) Kaneda T., Kitamura Y. and Nomura Y.: Presence of subtype of muscarinic acetylcholine receptors and receptor-mediated increase in cytoplasmic concentration of Ca^{2+} in Jurkat, a human leukemic helper T lymphocyte. *Mol. Pharmacol.* **43**: 2633-2641, 1993.
- 2) Miyazaki A., Kitamura Y. and Nomura Y.: Characterization of [3H] staurosporine binding in protein kinase C-II purified from rat brain. *Neurochem. Int.* **22**: 455-464, 1993.
- 3) Kitamura Y., Miyazaki A., Yamanaka T. and Nomura Y.: Stimulatory effects of protein kinase C and calmodulin kinase II on NMDA receptor/channels in the postsynaptic density of rat brain. *J. Neurochem.* **61**: 100-109, 1993.
- 4) Kumagai C., Tohda M. and Nomura Y.: Increase in neurite formation and acetylcholine release by transfection of GAP-43 cDNA onto NG 108-15 cells. *J. Neurochem.* **61**: 526-532, 1993.
- 5) Akiho H., Tokumitsu Y., Noda M. and Nomura Y.: Decrease in coupling of Gs in v-src-transformed NIH-3T3 fibroblasts: Possible involvement of tyrosine phosphorylation of Gs by pp60^{src}. *Arch. Biochem. Biophys.* **304**: 235-241, 1993.
- 6) Nomura Y. and Kitamura Y.: Inducible nitric oxide synthase in glial cells. *Neurosci. Res.* **18**: 103-107, 1993.

◆ 総 説

- 1) Nomura Y., Kitamura Y., Tohda M. and Tokumitsu Y.: Drugs acting on the intracellular signalling system. *Med. Res. Rev.* **13**: 1-60, 1993.
- 2) 野村靖幸: セロトニン受容体: サブタイプと作

- 用薬. BRAIN MEDICAL 5:57-63, 1993.
- 3) 野村靖幸: ニューロン死と防御の病態分子薬理. 病態生理, 12: 230-232, 1993.
 - 4) 野村靖幸: 脳の老化—老化促進モデルマウスによる研究—. 北海道薬剤師会雑誌, 10: 2-5, 1993.
 - 5) 野村靖幸: ニューロン死の病態分子薬理. 北海道医学雑誌, 68: 780-781, 1993.
 - 6) 野村靖幸: 神経毒によるニューロン死の機構—アポトーシス関与の可能性—. 実験医学, 11: 2306-2311, 増刊「アポトーシス」1993. 羊土社.
- ◆ 学会報告
- 1) 山中庸次郎, 北村佳久, 野村靖幸: 老化促進モデルマウス (SAM) 脳における加速的グリオシス. 第66回日本薬理学会総会, 1993, 3, 横浜.
 - 2) 関谷暁子, 東田道久, 野村靖幸: NG108-15 細胞中の3種のグアニル酸シクラーゼの機能的役割分担; cAMP ホスホジエステラーゼ活性への影響. 第66回日本薬理学会総会, 1993, 3, 横浜.
 - 3) 熊谷千尋, 小田温子, 中村順司, 東田道久, 野村靖幸: セロトニン_{1c}受容体 cDNAトランスフェクションのNG 108-15細胞におけるイノシトールリン酸の産生. 第66回日本薬理学会総会, 1993, 3, 横浜.
 - 4) 北村佳久, 今泉 玲, 野村靖幸: ラット脳グリア細胞で誘導されるNO シンターゼ. 第66回日本薬理学会総会, 1993, 3, 横浜.
 - 5) 野村靖幸: 老人性痴呆症モデルマウスによる薬効評価. 第113回薬学会年会シンポジウム, 1993, 3, 大阪.
 - 6) 東田道久, 村山俊彦, 長谷川宏之, 野村靖幸: IV型ホスホジエステラーゼのニューロン・グリア間分布; 培養細胞系を用いた検討. 第113回日本薬学会年会, 1993, 3, 大阪.
 - 7) 白崎智子, 北村佳久, 野村靖幸: ラット脳膜画分における新規意識障害治療薬アポピンカミン酸VA-045 結合の性質. 第113回日本薬学会年会, 1993, 3, 大阪.
 - 8) 岡村 篤, 大久保和章, 山村剛康, 剣物 修, 東田道久, 野村靖幸: mRNA 注入アフリカツメガエル卵母細胞の5TH 応答に対するメトキシフルレンの作用. 第40回日本麻酔学会, 1993, 4, 岩手.
 - 9) 東田道久, 野村靖幸: セロトニンによる膜結合性グアニル酸シクラーゼの活性化に及ぼすリチウムの影響. 第13回リチウム研究会, 1993, 4, 東京.
 - 10) 野村靖幸, ニューロン死の病態分子薬理. 第7回ニューロサイエンス研究会, 1993, 4, 札幌.
 - 11) 野村靖幸: リンパ球およびグリア細胞の生理活性物質誘導と神経系. 平成5年度北海道歯学会総会・学術大会, 1993, 5, 札幌.
 - 12) 村山俊彦, 北村佳久, 山中庸次郎, 野村靖幸: 中枢神経系の薬理学的形態的加齢変化. 日本薬学会シンポジウム「脳高次機能の老化と障害—予防薬・治療薬を求めて」, 1993, 7, 札幌.
 - 13) 野村靖幸: 細胞内情報伝達機構に関する最近の知見. 第4回CNS懇話会, 1993, 7, ハケ岳高原.
 - 14) 桐山賀充, 来山義則, 西屋 禎, 北村佳久, 野村靖幸: 脳NO シンターゼにおける[³H]N^G-nitro-L-arginine 結合の性質. 第7回北海道薬物作用談話会, 1993, 7, 札幌.
 - 15) 徳光幸子, 池田佳菜子, 野村靖幸: 五味子の抗痴呆活性成分シザンドリンの脳情報伝達に対する作用. 第10回和漢医薬学会, 1993, 8, 富山.
 - 16) 磯部正治, 伊藤昭博, 野村靖幸, 荻田善一: サブトラクション法を用いた新しい和漢薬効果解析法の開発. 第10回和漢医薬学会, 1993, 8, 富山.
 - 17) Nomura Y., Kitamura Y. and Yada T.: Stimulatory role of m3-muscarinic receptor on antigen-induced formation of IL-2 and IL-2 receptors in human T-lymphocytes. 14th International Society for Neurochemistry Biennial Meeting, 1993, 8, Montpellier.
 - 18) 北村佳久, 今泉 玲, 来山義則, 野村靖幸: 培養グリア細胞のエンドトキシンによって誘導されるNO シンターゼ. 第66回日本生化学会大会, 1993, 10, 東京.
 - 19) 大坂康人, 徳光幸子, 野村靖幸: ラット脂肪細胞の糖作用促進におけるアデニル酸シクラーゼ系の関与. 第66回日本生化学会大会, 1993, 10, 東京.
 - 20) 上原 孝, 宇井理生, 徳光幸子, 野村靖幸: 3T3-L1細胞の脂肪への分化誘導機構. 第66回日本生化学会大会, 1993, 10, 東京.
 - 21) 中澤美奈子, 久保都美子, 長井忍布, 北村佳久, 野村靖幸: 新規パーキンソン病治療薬タリベキソールのラット脳ドパミン系に対する作用. 第44回日本薬理学会北部会, 1993, 10, 弘前.
 - 22) 北村佳久, 佐藤太治, 野村靖幸: Pentamidine のNO synthase 抑制作用. 第44回日本薬理学会北部会, 1993, 10, 弘前.
 - 23) 東田道久, 伊藤奈緒子, 野村靖幸: リチウム

- によるグアニル酸シクラーゼ活性の抑制. 第44回日本薬理学会北部会, 1993, 10, 弘前.
- 24) 東田千尋, 東田道久, 野村靖幸: 神経分化に関与する新規因子 TA20cDNA クローニングおよびその機能の検討. 第36回日本神経化学会, 1993, 10, 大阪.
- 25) 長谷川宏之, 村山俊彦, 北村佳久, 高橋明美, 板倉智敏, 野村靖幸: ニューロフィラメント欠損ウズラ (Quiver) の脳における神経伝達物質動態の変化. 第36回日本神経化学会, 1993, 10, 大阪.
- 26) 来山義則, 北村佳久, 桐山賀充, 野村靖幸: 脳 NO シンターゼにおける [^3H] N^G -nitro-L-arginine 結合の性質. 第36回日本神経化学会, 1993, 10, 大阪.
- 27) 北村佳久, 来山義則, 桐山賀充, 江角浩安, 野村靖幸: ラット脳グリアにおける NO シンターゼ誘導機構. 第36回日本神経化学会, 1993, 10, 大阪.
- 28) Okamura A., Ohkubo K., Yamamura T., Kemmotsu O., Tohda M. and Nomura Y.: Inhalational anesthetics depress second messenger-mediated response of mRNA expressed *Xenopus* oocytes. 1993 Annual Meeting of the American Society of Anesthesiologists, 1993, 11, Washington, D.C.
- 29) 板野泰弘, 北村佳久, 野村靖幸: ドパミンニューロンモデルにおける MPP^+ (パーキンソン病誘発毒) の作用機構. 第15回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 1993, 11, 東京.
- 30) Kitamura Y. and Nomura Y.: Inducible nitric oxide synthase in glial cells. The 17th Taniguchi International Symposium "Nitric oxide: Roles in Neuronal Communication and Neurotoxicity", 1993, 11, Shizuoka.
- 31) 野村靖幸: T細胞とグリア細胞の生理活性物質誘導と神経系. 第23回日本免疫学会シンポジウム「脳と免疫」, 1993, 11, 仙台.
- 32) 北村佳久, 来山義則, 桐山賀充, 中澤美奈子, 野村靖幸: 脳グリア細胞の一酸化窒素合成酵素: 性質と細胞内シグナリング. 第10回細胞情報伝達系北海道研究会, 1993, 11, 札幌.
- 33) 桐山賀充, 北村佳久, 野村靖幸: 脳 NO シンターゼにおける [^3H] N^G -nitro-L-arginine 結合の性質. 第17回日本神経科学大会, 1993, 12, 名古屋.
- 34) 北村佳久, 桐山賀充, 野村靖幸: ラット脳グリア細胞における NO シンターゼ誘導にはチロシンキナーゼ活性化が関与する. 第17回日本神経科学大会, 1993, 12, 名古屋.
- 35) 磯部正治, 伊藤昭博, 野村靖幸: 老化促進マウス (SAM) の大脳皮質で発現増強の認められる遺伝子のサブトラクション法による単離. 第16回日本分子生物学会大会, 1993, 12, 幕張.